

(5) 昭和21年7月10日第3種郵便物認可

B29墜落の映画上映

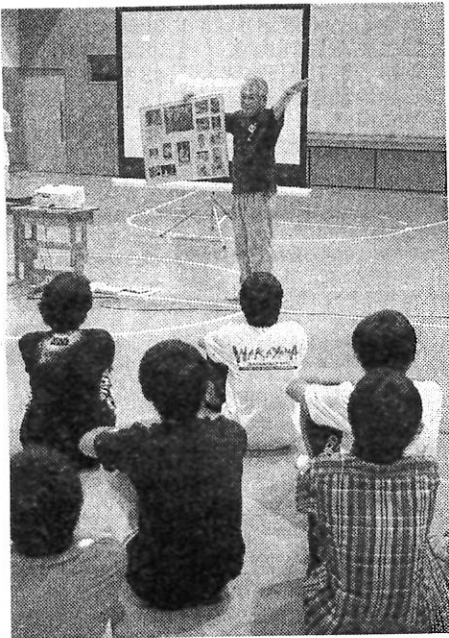
龍神村 居合道の合宿で

日本戸山流居合道無限塾(清水清龍会長)はこのほど、田辺市龍神村殿原の「やまやか館」(旧殿原小学校)での合宿で、太平洋戦争末期に殿原の山中に墜落した米軍爆撃機B29を取り上げたドキュメンタリー映画「轟音(ごうおん)家、古久保健さんのことも知

ん)―龍神村物語―」の上映会を開いた。

清水会長によると、以前から殿原で合宿を行っており、この映画のことも、B29の墜落を小学生の時に経験して調査を続けている地元郷土史家、古久保健さんのことも知

っていたことから、交流がある地元住民のグループ「愛殿会」の協力を得て上映会を開くことにしたという。



居合道の合宿に合わせて、ささやか館で田辺工業高校弓道部員19人も夏合宿をしており、清水会長が部員を上映会に誘った。

映画の前に古久保さんが講演。小学2年生の時に体験したB29の墜落や生き残った米兵に地元住民がおにぎりを与えたこと、慰霊碑を建立するなど地元で供養を続けてきたこと、遺族を米国に訪ねて交流したことなどを語った。

また古久保さん自身、父親が戦死しており、B29の搭乗員の米兵の親族も同じ思いだろうと探し求めた結果、つい

に戦死した米兵の妹と米国で対面を果たした。古久保さんは弓道部員らに「私と同じ苦しみを味わってほしくない。同じ過ちもしてほしくない」と語り掛けた。

その後、参加者は映画を観賞。弓道部主将で2年生の中島悠也君は「B29の墜落や慰霊碑のことを初めて知った。敵兵におにぎりを与えたのを見て、村の人は優しいと思った。古久保さんが墜落をきっかけに調査活動をしていることにすごく感動した。現在は戦争に向かっているといわれているが、悲惨な戦争は起こしてはいけないと思った」と話した。

清水会長は「高校生らも戦争を知らない世代。今夏は戦後70年の節目で、戦争のことを知る良い機会となったと思う」と話している。

△ 轟音の上映会で講演する古久保健さん
(田辺市龍神村殿原で)